

令和 6 年 9 月 6 日現在

機関番号：22501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10401

研究課題名（和文）保育所における精神疾患をもつ母親への育児支援システムの構築

研究課題名（英文）Constructing a parenting support system for nursery school children's mothers with mental health conditions

研究代表者

金丸 友（KANAMAR, Tomo）

千葉県立保健医療大学・健康科学部・准教授

研究者番号：20400814

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、保育所の保育士や看護職が行っている精神疾患をもつ母親への育児支援の実際と支援時の困難を明らかにし、保育所における精神疾患をもつ母親への育児支援システムを構築することを目的とした。保育士や看護師は、保育所内外で連携し、工夫しながら母親とコミュニケーションをとり、子どもに対しては成長発達と安全の観察をしていた。しかし、母親とのコミュニケーションへには困難がみられ、特に精神疾患の症状や治療が関連する困難がみられた。本研究で明らかになったことより、保育所における精神疾患をもつ母親への育児支援システム構築への示唆が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神疾患をもつ母親への育児支援として、保育所の役割は大きい。しかし、保育所では、母親との関わりにおいて困難や疲弊がみられる。保育所における精神疾患をもつ母親への育児支援システムを構築することによって、保育所の保育士や看護師は精神疾患をもつ母親との関わりにおける困難を軽減しながら効果的な支援を提供でき、それにより母親が疾患をコントロールしながら育児をすることを促進し、子どもにとって安全な環境を整備することや成長発達を促進することが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to investigate the parenting support nursery school teachers and nurses can provide to mothers with mental health conditions, identify the difficulties they face when providing support, and construct an effective parenting support system. Nursery school teachers and nurses communicate with these mothers with ingenuity and monitor their children's growth, development, and safety through collaboration within and outside the nursery schools. However, they encounter difficulties in communicating with the mothers, especially in relation to the symptoms and treatment of mental health conditions. The findings suggest a parenting support system for these mothers in nursery schools.

研究分野：看護学

キーワード：精神疾患をもつ母親 保育士 保育所看護職 保育所 育児支援

1. 研究開始当初の背景

平成16年厚生労働省は「精神保健医療福祉の改革ビジョン」にて「入院から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉施策の基本的な方針を示した。これにより精神障害者の入院から地域生活への移行の取り組みが進んでいる。また、平成20、22、24年度診療報酬改定では、精神障害者の地域移行の促進や地域生活の支援の観点から改定されている。このような国の政策もあり、精神疾患をもちながら地域で生活する人が増加しており、今後も増加することが予測される。これまでの精神疾患の治療薬は副作用で正常な性周期を保てないことがあった。近年妊孕性への副作用の少ない治療薬が開発されたり、精神疾患をもつ人の地域生活への移行によって出会いが増えたことにより、妊娠・出産を経験する精神疾患患者が増加している。精神科・産科の看護スタッフへの調査¹⁾によると、約半数のスタッフが統合失調症をもつ母親への支援経験があると回答している。今後も統合失調症など精神疾患をもちながら育児をする母親は増えると予測される。一方、多くの研究で精神疾患をもつ妊婦の周産期管理の難しさや母親の精神疾患の悪化²⁾、子どもへの不適切な養育・虐待³⁾が報告されている。特に乳幼児の育児は健康な母親にとっても困難であり、母親は身体的にも精神的にも不安定になりやすい。統合失調症など精神疾患をもつ母親は、自身の疾患管理とともに育児を行う必要があり、健康な母親よりも不安定になりやすい。研究代表者が行った研究では、母親は精神疾患の症状により家事や育児、人とのコミュニケーションが困難になったり、治療薬の副作用のため夜間の育児ができないことがあった。また、対象者全員が産後の体調悪化を経験していた。そのような中、母親にとって家族や専門職からの支援や市町村の育児支援サービスが有用であった⁴⁾。特に乳幼児期の子どもを育てる母親には、日々関わる専門職として保育士や保育所看護師からの支援が重要と考える。しかし、現場からは精神疾患をもつ母親に対する支援の難しさが聞かれている。精神疾患をもつ母親への保育所における育児支援に関する先行研究はほとんどなく、育児支援の指針はない。保育所における精神疾患をもつ母親への育児支援の実態を明らかにし、母親への保育所における育児支援体制を整える必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究課題は、保育士や保育所看護師が行っている精神疾患をもつ母親への育児支援の実際と母親への育児支援で困難を感じていることを明らかにし、保育所における精神疾患をもつ母親への育児支援システム構築することを目的とした。

3. 研究の方法

保育士や保育所看護師による精神疾患をもつ母親への育児支援を明らかにするために、保育士と保育所看護職を対象とした自記式質問紙調査と半構造的面接を行った。

自記式質問紙調査では、A県のホームページ(2019年8月28日時点)に記載してある保育所一覧のうち、全ての公立保育所と認可保育所(計883施設)に精神疾患の母親や子どもへの支援内容、支援時の工夫、支援時の困難、保育所外の施設や専門職との連携体制等に関する自作の自記式質問紙を2部ずつ計1766部配布した。統計解析はSPSS Statistics Ver.25を使用し、記述統計、および、Mann-WhitneyのU検定を用いて属性による比較を行った($p < 0.05$)。自由記載欄については記述内容を質的帰納的に分析した。

半構造的面接調査では、自記式質問紙調査と同じ保育所に面接調査への協力依頼書と返信用葉書を2部ずつ(計1766部)配布し、研究への関心をもった人に返信用葉書を投函してもらった。その後、口頭および書面にて面接調査の説明を行い、同意が得られた場合、精神疾患の親のケースを想起してもらい子どもと親への関わりと関わりにおける困難等について半構造的面接を行ない、質的帰納的に分析した。

本研究は、秀明大学は秀明大学研究倫理審査委員会の承認(18E011A)を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 質問紙調査結果

① 回答者の背景

質問紙は199部回収し(回収率11.3%)、母親が精神疾患である子どもの保育経験があると回答した176部のうち関わりと困難の項目に無回答がない131部(有効回答率74.4%)を分析した。71.3%が40歳以上、96.9%が女性、78.0%が保育職、45.7%が管理職だった。

② 実施している支援

「いつも行っている」または「時々行っている」の回答が80%以上の項目は、「子どもの精神状態が落ち着いているか観察する」、「子どもの欠席状況や欠席理由を把握する」、「子どもと他の子どもとの関係・コミュニケーションについて観察する」、「子どもの成長発達に気をつける」等であり、子どもへの直接的な関わりに関する項目であった。60%以上だった項目は、「母親が安心して子どもを預けたり、相談できたりするようにする」、「母親の子どもへの接し方を観察する」、「母親の心配事や不安を把握する」、「母親をサポートしてくれる人を把握する」、「母親が休

息できているか尋ねる」、「母親に子どもへの育児方法や関わり方について伝える」等であり、母親の育児や生活に関する項目であった。一方、60%未満だった項目は、「母親に内服できているか尋ねる」、「母親に治療内容を尋ねる」、「母親が一人の女性として成長できるように関わる」、「母親以外の家族に母親の病状や状態を尋ねる」、「母親に母親の病状や状態について尋ねる」であり、母親の精神疾患や治療に関する項目だった。

③ 支援時の困難

困難に関する項目を「いつもそう思う」または「時々そう思う」と回答した割合が80%以上の項目は、「母親とのコミュニケーションが難しい」、「自分の母親への関わりが間違っていないか不安になる」、「母親がこちらの説明を理解しているのか分かりにくい」、「母親の治療や病状に関することが分かりにくい」、「母親との関わり方が分からない」等であり、母親とのコミュニケーションや母親の治療や病状に関する項目だった。一方、「子どもとの接し方が分からない」、「母親への関わり方について、他の職員に理解してもらうことが難しい」、「母親との関わり方について、相談するところがない」については、「いつもそう思う」または「時々そう思う」の回答が50%以下であり、母親以外の人との関わりについては、他の項目と比較して困難を感じている人が少なかった。

④ 実施している支援、および、支援時の困難における属性による比較

・ 実施している支援

「いつも行っている」または「時々行っている」の回答が60%未満だった9項目のうち、6項目に属性による有意差がみられた。「母親に治療内容を尋ねる」、「母親に内服できているか尋ねる」は50歳以上、看護職、資格取得前に精神疾患をもつ母親への支援の教育受講経験がある人、精神疾患患者と交流経験がある人が、「母親がひとりの女性として成長できるように関わる」は50歳以上、管理職、経験年数の多い人が、「母親に家庭での安全な環境について伝える」は50歳以上、管理職、経験年数の多い人が、「母親以外の家族と積極的に連絡をとる」は50歳以上、管理職、経験年数の多い人、精神疾患患者と交流経験がある人が、「母親に説明するとき、行動で示せるものはデモンストレーションして説明する」は保育士、管理職が、それ以外の属性の回答者より有意に行っていた。

・ 支援時の困難

「他施設や他機関との関わりが難しい」は50歳未満の人が、「これまで行ってきた育児支援と違いがあって戸惑う」、「母親の病状や治療に関することが分かりにくい」は保育職が、「母親とのコミュニケーションが難しい」は管理職が、「母親に理解してもらうことが難しい」は経験年数が多い人が、「母親との関わり方について、他の保護者に理解してもらうことが難しい」は経験年数が多い人と資格取得後に精神疾患をもつ母親への支援の教育受講経験がある人が、それ以外の属性の回答者より有意に困難を感じていた。

⑤ 保育所外の機関との連携について

71.9%が保育所外の機関と連携していると回答した。連携先で多かったものは、「市役所・区役所」(68.5%)、「保健センター」(63.0%)、「児童相談所」(37.0%)であった。

⑥ 母親への支援に関してであると役立つもの

母親への支援であると役立つものの回答として多かったものは、「精神疾患の特徴や関わり方に関する講演会やセミナー」(67.9%)、「関わりに困ったときの相談窓口」(64.1%)、「精神疾患の特徴や関わり方に関するパンフレット」(35.1%)、「同じような悩みをもつ同職種の人との交流や勉強会」(29.8%)であった。

(2) 面接調査結果

① 研究協力者の背景

10名より葉書の返信があり、6名より研究協力への同意を得た。研究協力者は男性1名、女性1名で、保育士3名、看護師2名、精神保健福祉士1名であり、4名が施設長だった。専門職の経験は10数年から35年であり、保育所での経験は10数年から20年であった。

② 実施している支援

保育士と看護師は、親との信頼関係の構築に努め、親の自立を念頭において支援しすぎないように気を付けていた。親と関わる時は、親の状態に合わせて伝える内容や方法を選択していた。子どもに対しても、子どもが甘えられるようしながらも将来を考えて生活の基盤を作るようにしていた。また、日々親と子どもに関わることから些細な変化に気づくことができていた。そしてその変化を保育所内で共有し、職員で統一した対応をとっていた。必要時は他機関につないでいた。配偶者や子どもの祖父母など精神疾患をもつ親以外の家族と連絡が取れる場合は、その家族から情報を収集したり、子どもの年齢によっては子どもとの会話から親の状態や家庭状況を把握したりしていた。他機関から親や家族の情報を得ることもあった。そして親や子どもへの支援のためには、自身が健康でいられるよう努めていた。

③ 支援時の困難

支援時の困難として、親とのコミュニケーションが取りづらく、親の暴力的な言動に恐怖を感じる、親への支援体制が整えにくい、親の治療方針に沿った関わり方が分からない、虐待が子どもの成長発達に影響を及ぼしていることに問題を感じる、他の子どもや保護者への対応に困る、子どもへの保育や保育体制に支障がでる、他機関との連携において課題があるがみられた。

④ 保育所内外の連携

精神疾患をもつ親への支援における保育所内の連携は、各保育所が通常行っている連携方法であった。保育所によって役割分担や情報共有方法は異なっていたが、それらのルートがスムーズであることが保育所内のよりよい連携につながっていた。

保育所外の他機関との連携においては、保育所では得られない情報を得たり、困ったときに相談できたりすることを有益と感じていた。しかし、他機関と方針が合わないことがある、ケース会議が終了すると他機関との連携が維持しにくい、小学校進級時への支援体制が整っていないという課題もみられた。

(3) 保育所における精神疾患をもつ母親への育児支援システム構築に向けた示唆

保育所における精神疾患をもつ母親への育児支援システムとして、次のことが考えられた。基盤に【保育所内での連携や役割分担が、日ごろから円滑であること】があった。精神疾患をもつ母親への支援に関わらず、普段から保育所内でコミュニケーションが良好で、困ったときに相談できる体制があることで、情報や方針が共有され、それぞれの職種の専門性や立場を発揮し、一部の職員に負担がかかることなく支援することができていた。そして【精神疾患をもつ母親の特徴の理解】、【困ったときに外部の専門職に相談できるシステム】、【職員のメンタルヘルス支援】が、精神疾患をもつ母親への支援を促進させると考えられた。【行政・外部機関との連携】も母親への支援を促進しており、保育所では入手しにくい情報を得ることができ、困ったときに相談することができていた。保育所職員は保育所外での母親や子どもの生活上の問題に気づくことがあるが、外部機関と連携することで保育所外への生活への支援につながっていた。

(4) 研究成果の国内外における位置づけとインパクト、および、今後の展望

わが国では保育所における精神疾患をもつ母親への関わりについて明らかにされていないため、本研究課題で明らかになった保育所の保育士や看護職による支援の実際や支援時の困難は、乳幼児を育てる精神疾患をもつ母親への支援や精神疾患をもつ母親と関わりをもつ保育士や看護師への支援に向けた重要な知見になると考えられる。

今後は、研究をさらに発展させるとともに、育児支援システムの運用を検討していきたい。

<引用文献>

- 1) 澤田いずみ. 統合失調症をもつ人の妊娠・出産・子育て看護支援プログラムに関する研究. 2011年科学研究費補助金研究成果報告書, 2011.
- 2) 佐々木綾, 岩佐弘一, 松尾精記, 平杉嘉一郎, 岩破一博, 北脇城. 精神病合併妊婦の周産期管理についての検討. 女性心身医学, 17 (2), 206-212, 2012.
- 3) 星野裕子, 永野玲子, 船倉翠, 竹内務, 品川寿弥, 林端成, 渡辺とよ子. 当院における出産後虐待ケースへの介入について. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 49 (1), 248-255, 2012.
- 4) 金丸友, 望月実恵, 中村伸枝, 佐藤奈保, 仲井あや. 精神疾患をもつ母親が体調を管理しながら行う育児と母親に対する周囲からのサポートや専門家の支援について. 小児看護学会第26回学術集会講演集, 123, 2016.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 金丸友, 飯村直子, 原加奈, 三池純代	4. 巻 3
2. 論文標題 精神疾患をもつ母親への育児支援に関する文献検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 秀明大学看護学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34378/00000032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 金丸友, 小宮浩美, 飯村直子, 原加奈, 三池純代
2. 発表標題 保育所保育士・看護師による精神疾患をもつ母親と子どもへの関わりとその困難
3. 学会等名 第71回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 金丸友, 飯村直子, 原加奈, 小宮浩美, 三池純代, 東本裕美
2. 発表標題 保育所の保育士・看護職が感じる精神疾患をもつ母親との関わりにおける困難
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomo Kanamaru, Sumiyo Miike, Naoko Iimura, Kana Hara
2. 発表標題 Difficulty of nursery school staff caring for children with parents that have mental health issues in Japan
3. 学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金丸友, 飯村直子, 原加奈
2. 発表標題 精神疾患をもつ母親への育児支援に関する文献検討
3. 学会等名 第66回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯村 直子 (IIMURA Naoko) (80277889)	秀明大学・看護学部・教授 (32513)	
研究分担者	原 加奈 (HARA Kana) (60812279)	秀明大学・看護学部・講師 (32513)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小宮 浩美 (KOMIYA Hiromi) (10315856)	千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授 (22501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------